

# SRL Quarterly Forecast

2018年新春号

No. 104

## ポイント

### **Trends & Forecast**

世界的に景気は堅調で、半導体の最終市場のスマートフォン、データセンターに代表されるIT市場、ロボットやIoT(モノのインターネット)に代表される産業用機器それから電気自動車(EV)やPHV、HV車の電動車市場の三本柱は、18年も成長が見込めそう。半導体は、材料から装置まで含めて供給はひっ迫、その結果、最終市場より高い伸びが見込まれる。メモリの伸びに牽引された半導体ブームは、18年の前半まで続きそう。

### **Trade & Asian Dynamics**

中国および東南アジア市場ともに市場や国によって違いがあるが、18年も成長が持続しそう。

### **Company & Competitiveness**

世界の主要半導体企業41社の17年第3四半期は総計で売上が前期比10.9%、前年同期比20.8%それぞれ増と好調。利益は同じ比較で28%、120%それぞれ増、利益率は27.7%と絶好調だった。

### **Market & End user**

半導体の三大市場(IT機器、ロボットやIoTの産業機器それから車)が成長を継続している。18年は成長を上乘せする可能性が、いずれの市場でも含んでいる。これは半導体にとって明るい材料で、18年は、従来みられた周期的な景気変動(シリコンサイクル)を覆す可能性がある。

### **Conclusion**

明るい展望のなかで影をもたらすような要因は、メモリ市場の変化や産業全体での再編が与える影響だろう。17年のメモリの突出した伸びは異常で18年は沈静化しそうだが、後半には中国の新規参入が始まり、競争局面が変化する可能性がある。産業再編では、ブロードコムによるクアルコムを買収、東芝メモリの売却、新体制への移行など決着に手間取りそうな大型案件が控え、これは産業内部の競争や特定半導体製品での需給に影響をおよぼすことが懸念される。

## 主な内容

- ・ NANDとDRAM世界出荷の増減推移 実績と予測
- ・ 世界の主要半導体企業41社/ファウンドリ3社、17年第3四半期業績集計(売上/利益額/利益率/売上伸び率それぞれ上位25社)
- ・ 世界主要半導体/ファウンドリ企業の売上、利益の長期傾向
- ・ 半導体の需要分野の国内生産推移と予想
- ・ 予測結果

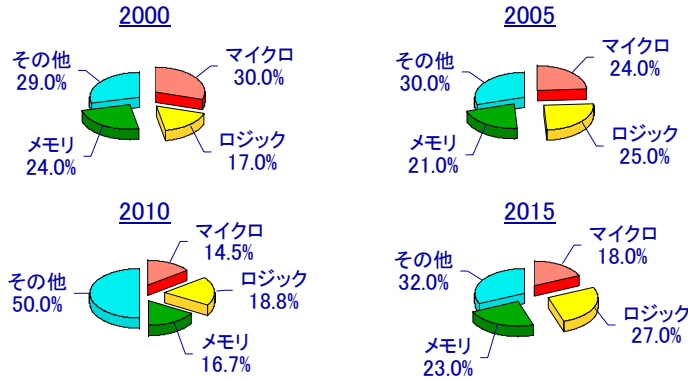
3ページ目に予測の主要指標、最終ページに定義を掲載しております

文字の色が赤い部分をクリックして右クリックしてリンクを開くと対応したページに移動します

# 予測の主要指標について

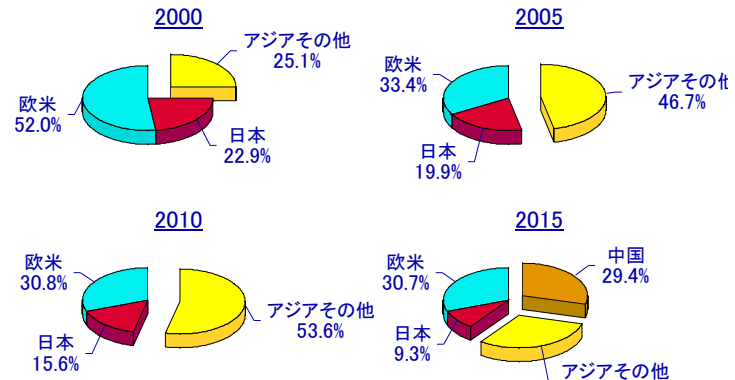
以下の4点の図は、本誌の分析、予測の基本的な要素を示している。長期的な視点での変化とその要因、それを踏まえての短期的な傾向と新たな変化を捉えようとしている。

世界半導体出荷での主要製品別比率



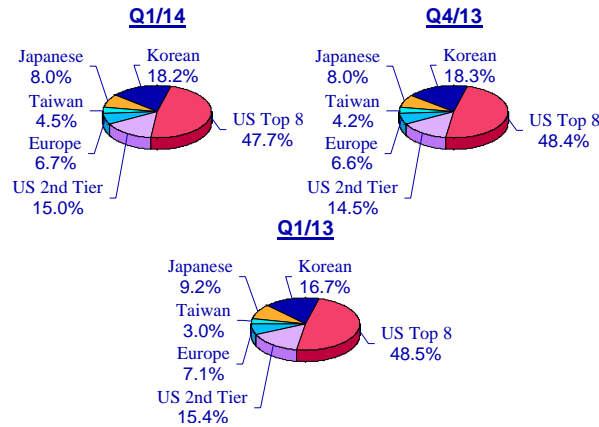
主要製品では、変動が比較的大きいマイクロ、メモリを重点にしている  
最近では、ロジックが増加していることから予測に反映させる予定

世界市場での日本、アジアの比率

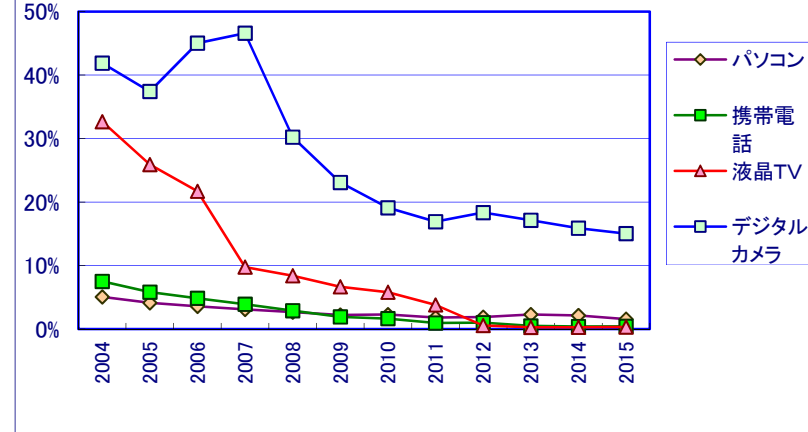


地域では、日本およびアジア市場の動向に重点を置いている。

世界の46半導体企業の2014年第1四半期売上シェア  
ファウンドリ会社を除く



国内生産の世界シェア  
(数量ベース)



# SRL Quarterly Forecast

## 予測手法について

予測は、10年間あるいは20年間のデータベースを基本にした長期傾向、季節変動に代表される短期傾向、それからいくつかの先行指標を用いた方法を混在させて行っております。この方法は半導体産業の規模が大きくなり、かつ信頼される統計その他の情報の蓄積が進むほど予測精度は高まります。ただし、既存の傾向に含まれない突発的な出来事(戦争、地震等)が発生した場合を除きます。傾向と先行指標から判断する方法は、もう一方の代表的な予測方法であります市場関係者への聞き取りやアンケート集計と異なり、人為的にもたらされる過剰な期待やその逆の過度な弱さを排除できる特徴があります。本誌では、図を多様して予測説明を行っておりますので、傾向や転換点が容易に理解できます。

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。  
この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を半導体総合研究所の解釈と分析で表現したものです。  
2017年 版權所有 SRL (半導体総合研究所)

## 定義と説明

- 1) 国内統計: 生産は経済産業省機械統計で、最新値は速報値。輸出、輸入は財務省通関統計を使用。生産は社内使用や自社目的のみに生産された分を含む。輸出はFOB(輸出港渡し条件)、輸入はCIF(運賃保険料込着港渡し条件)、非実装品は輸出、輸入に含まず、「非実装輸出」で別個に扱う。  
図中、「消費は調整前」とあるのは、推定消費: 生産-輸出+輸入で計算。この計算式では在庫の増減で消費される時期が前後するが、調整前の場合は、上記計算を適用。
- 2) 国際統計: 世界半導体市場統計(WSTS=World Semiconductor Trade Statistics), 米半導体工業会(Semiconductor Industry Association)  
韓国税関サービス(Korea Customs Service), 台湾(Taiwan Directorate General of Customs), 中国税関(China Customs), 香港政府統計處(Hong Kong Census and Statistics Department)など。関税分類の個別半導体およびオプト製品(8541-XX-XXX)、集積回路(8542-XX-XXX)で定義された全ての半導体の貿易額を使用している。これらのなかには処理済ウエハーや部分品も含まれ、要するに半導体全体である(本誌の半導体貿易は原則完成品を対象とし、それ以外の場合は定義をその都度説明している)。
- 3) 企業情報: 原則として企業が外部に公表した決算資料の数字を利用している。日系企業では、営業利益を公開しない例もあるが、その場合は本誌の推定値を使用している

2017年12月(年4回発行)第26巻4号(通巻104号)  
発行元/株SRL  
〒188-0014 東京都西東京市芝久保町 3-1-35  
TEL 03-5684-3941 FAX 03-5684-3943  
編集・発行人: 大竹 修

SRL Quarterly Forecast December 2017, No. 104  
Semicon Research Ltd. [www.semiconresearch.co.jp](http://www.semiconresearch.co.jp) [info@semiconresearch.co.jp](mailto:info@semiconresearch.co.jp)  
3-1-35 Shibakubocho Nishitokyo-City.  
Tokyo 188-0014 Japan  
Publisher/Editor: Osamu Ohtake

© SRL 2017

購読料金1年分(4号)60,000円(税別)